

令和6年度第2回日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会 議事録

日 時	令和6年9月24日(火) 午前10時から11時40分まで
場 所	日進市民会館2階会議室
出 席 者	佐野 治(委員長)、吉井 竜良、小池 由成、鈴木 智恵子、稲垣 幸子、寺田 裕美、櫻井 かおり、中島 五郎、椎葉 梢、牛田 由美子、村野 政章
欠 席 者	藤井 勉、鈴木 国弘
事 務 局	祖父江 直文(福祉部長)、高見 紀子(福祉部次長兼地域福祉課長)、野村 圭一(地域福祉課課長補佐)、藤田 綾子(地域福祉課兼保険年金課総括保健師)、新海 洋人(地域福祉課福祉政策係長)、櫻木 順子(地域福祉課地域支援係長)、小倉 懸自(地域福祉課地域支援係主査)、春名 俊和(地域福祉課福祉相談係主任)、上野 槇也(地域福祉課福祉政策係主事)、天野 典幸(日進市社会福祉協議会包括支援課長)、福田 有輝(日進市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係長)
傍聴の可否	可
傍聴の有無	有(1名)
次 第	1 あいさつ 2 報告 につしん助け合いリビングラボについて 3 議題 第2期につしん幸せまちづくりプランについて (1) 第1章・第2章について (2) 基本理念について 4 その他
配 布 資 料	・次第 ・委員名簿 ・資料1-1、1-2 助け合いリビングラボニュースレター ・資料1-3 助け合いリビングラボ第3回おしながき ・資料2 第2期幸せまちづくりプラン第1章、第2章 ・資料3 日進市主要課題シート(案) ・当日資料 助け合いリビングラボ第3回ニュースレター

発 言 者	内 容
	1 委員長あいさつ
事 務 局	2 報告 につしん助け合いリビングラボについて 3 議題
委 員 長	それでは、議題に入りたいと思います。「第2期につしん幸せまちづくりプランについて」のうち、(1)第1章・第2章について、事務局から説明をお願いします。

発 言 者	内 容
事 務 局	(資料説明)
委 員 長	説明のありましたことについて、何かご質問、ご意見等がございましたら、発言をお願いします。発言に対して、最後に事務局よりまとめてご回答いただきますようお願いいたします。
委 員	11ページに自助・共助・公助の位置づけが書かれており、互助とは地域ボランティアや住民組織の活動と書かれています。地域の現場では、自助と互助を中心とした共助と社会保険のサービス等による公助という考え方が強い感じがします。自分が困ったときに、公的な支援体制があるかを調べて利用する公助と、そこから漏れる部分を移動支援やワンコインサービスなどの共助で支え合う。私自身そういう観点で行動しています。
委 員	<p>資料3の現在の課題について、良くまとまっているように感じます。</p> <p>課題2における、多機関協働による支援体制の構築については、個々での問題解決は難しく、また実務的な質問も多いことから、市役所の方や包括支援センターへの相談が主となり、概ね専門機関に繋ぐことが民生委員の役割だと考えています。</p> <p>課題5の潜在的な人材の掘り起こしについて、民生委員の任期は3年で12月に改選ですが、今期は103名の定員で5名欠員でした。担い手不足は否めず喫緊の課題だと感じています。</p>
委 員	<p>藤塚地区で小中学生の学習支援の場を設けていて、普段から小学生や子育て世代のお母さんと接することが多いのですが、地域の中では顔見知りとかご近所付き合いとかはあまりしないそうです。子ども会も入会率が毎年減っていて、役員になるなら脱会するという方が増えており、地域で子どもたちが関わる場が少なくなっている一因と思いますが、学校、家庭教育推進委員会などが催すイベントには積極的に参加しているそうです。</p> <p>小中学校では、授業で子どもたちと一緒に花壇づくりをするボランティアの募集を行っています。地域の皆さんと親御さんが参加することで関わりが増えて、ご近所同士が顔見知りになれる機会のサイクルができると良いと思います。</p> <p>子どもたちと子育て世代の親御さんたちを、地域の中に取り込むようなことができればと考えます。</p>
委 員	先日、地域で夏祭りを開催しました。そこで感じたことは、今の親御さんたちの仕事の現状や子育ての方法を私たち上の世代が理解できていないことです。私たちの世代は、親の言うことを子どもが聞くというのが当たり前でしたが、今の世代は、子どもの言うことを親が聞くという育て方が中心のように感じます。世代間で考え方や意見が噛み合わない状況となり、結果、子ども会は夏祭りに不参加となりました。

発 言 者	内 容
	<p>た。互いに認め合い理解し合う必要性を痛感しました。また、子どもとお年寄りの交流についても、静かな生活環境の中で過ごすことを望んでいるお年寄りの方も多く、子どもが来て騒ぐのは耐えられないという反応を示す方もいます。地域のつながりをつくることは大変難しいと実感しております。</p>
委 員	<p>にぎわい交流館の団体登録数は約265団体と増えてきていますが、一方で、コロナの3年間は閉館状態でした。昨年から団体間交流が可能になり意見交流会の場を設けています。先日は、国際系の団体に外国人の方が日進市のお祭りを体験したいという相談に来ていました。また、世代交代が上手くいなくて困っている団体など、知恵を出し合いながら頑張っています。</p> <p>個人的な話ですが、身近で虐待かと思われる事案があったのですが、自宅に見えた民生委員の方に相談してもいいのか、何処に相談すればいいのか迷いました。</p>
委 員	<p>にしん助け合いリビングラボの参加者は主にどんな方が参加され、年代と男女比はどうだったかを教えていただきたいです。今後のプロジェクトの発表や実証実験も楽しみです。</p> <p>日進ならではのお月見泥棒は良い文化で、お年寄りとお年寄りの交流が難しい中つながりができており、地域の中で意図的にこの様なことをやれば良いと思っています。</p> <p>資料2の4ページに、厚労省が出している地域共生社会づくりの図があります。農林水産業や工場、交通など様々な経済活動や社会活動が組み合わさっています。地域共生社会づくりを目指すには、福祉の問題だけに取り組むだけでは難しいと思います。重層的支援体制も日進市で始まりましたが、地域福祉計画の上に総合計画があるという部分で、まちぐるみ地域ぐるみで方向性を持ちながら新しい時代をつくっていくべきだと思います。</p>
委 員	<p>自助・互助・共助・公助は人によってそれぞれの捉え方があり、役割を限定的に考えることは難しいと思いました。</p> <p>地域共生社会は、つながりが大切だと考えています。コロナを経てミニコミュニティがとても大切なものだと感じています。数名の集まりを多くつくり、豊かで柔軟性を持って必要なときに必要なところとつながることができるフレキシブルな対応が望まれる時代です。成育過程の中でつながりを上手にできる人とできない人とは、つながりのつくり方や方法についてもセンシティブに考える必要性を感じます。つながり続ける工夫は、駄目だったらやり直すチャレンジングの精神で、気持ちを持ち続けることが大事だと考えています。</p> <p>最近、小中学生も対象にした子供の居場所作りにもチャレンジしていきたいと思っているところです。</p>

発 言 者	内 容
委 員	<p>福祉会館で福祉なんでも相談会を今後開催していくそうですが、CSWがこの相談を対応するのか、相談から見えてきた課題でやるのか、具体的に知りたいと思います。断らない相談体制の構築が大事だと何ヶ所か書かれており同じ意見ですが、現状、人材不足や専門的な知識が不足、断らざるを得ない状況はあると思います。だからこそ専門的なところに繋いでいく、それも含めて断らない相談体制の構築だと思っています。ただ資料3にあるように、精神障害のある人は本人が必要と判断しない限り支援が届かず、知らないがゆえに自分がここに当てはまるかわからない現状はあると思います。様々な精神障害の人がみえるので上手くつなげていく必要性を痛感しています。福祉なんでも相談会も具体的に相談できることが分かるともっと相談しやすいと感じました。</p>
委 員	<p>資料3の主要課題は、この通り対応できたらとても素晴らしいと思ったのが第1印象でした。しかし地区によっては組長をやる人が高齢になり、役回りも早く突然辞めたり施設に入ったりと成り立たず、夏祭りなどのイベントの規模がかなり縮小した様です。役をやる方が少なくなり、漠然とした不安が自分に降りかかっている状態だと思っています。日進は若い方が多く、活動的な地域で住み易いことが全国的にも知られていると思います。ただ小さな課題や多様化された問題はどの地区でもあり、子ども会に関しては、イベントには参加したいが役はやりたくないなど課題は多く、今後は有償無償も含めてボランティアや外部委託もできないかと思っています。少しそれますが、介護保険の認定者の方には介護事業者からの見守りがあり、まだ介護保険を使う前のフレイルに近い方は、ボランティアや外部委託のお手伝いなどがあります。主要課題の中で漠然とした不安を持っている方に対してどのように支援していくのが今後の課題と考えています。</p>
委 員	<p>スクールソーシャルワーカーは学校の現場の中で困っている子どもに寄り添って、学校生活の支援をしています。日進市では中学校区に1名の現場担当者がいて、中学校の職員室内に席を置き、先生方子どもたちと学校生活を共に過ごしながら課題に向き合っています。強みは、困っていることに気付くチャンスがあることです。現場のワーカーと共に世帯全体を見立てていく力、地域資源を知る勉強などもしています。また市役所にもワーカーが一人いて、個別の支援として困っているお子さんや保護者に寄り添い、大きなミッションとして学校の中にチームで支援をしていける体制作りもしています。課題3の困っている人の世帯に気づき専門機関につなぐは、この取り組みの中でできることだと思います。</p> <p>先ほど話にあがった、近所で怒鳴っている声が聞こえた件ですが、お子さんに関わっていれば市役所の子育て支援課の家庭児童相談室、</p>

発 言 者	内 容
	<p>またダイヤル 189 で直接児童相談所に匿名でも間違いでもいいのでかけてください。怒鳴り声がボヤッと聞こえていて、お子さんが絡んでいることか分かりづらいかと思いますが、間違いかどうかは調査に行って判明し、本当に困っているお子さんや保護者の方がいたら支援につながっていくと思います。</p>
委 員 長	<p>皆さまありがとうございました。それでは、事務局よりそれぞれご回答をお願いします。</p>
事 務 局	<p>自助・互助・共助・公助に関する話がありました。日進の地域福祉計画では12ページのような整理をしていく予定です。補完性の原理で、自分でできることは自助、できないことは共助、それでもできないときは公助の議論になりがちですが、そもそも自助・共助・公助は役割分担であろうと思っています。市役所は公助に関わる部分が多いので、公助として何ができるかを考えておく必要性を感じます。先ず自助をやってくださいでは自己責任論になるので、役割分担しながらそれぞれの中でできることを考え整理する認識でいます。</p> <p>リビングラボの参加者ですが、年代としては大学生から60代ぐらいの方まで幅広くお越しいただき、男女比は半々か女性の方が少し多い状況です。</p> <p>地域共生社会の関係ですが、日進市は今年度から重層的支援体制整備事業を始めました。特に力を入れているのが相談支援機関同士の連携で、関係課の担当職員とコア会議を毎月行い、相談支援に関わる人たちへの勉強会を開催しました。一方で参加支援を両輪と考え、困難を抱えた人や世帯が社会に関わりを持ち、福祉分野だけではない、例えば農業担当の部署と連携し農業に参加してみるなど参加先を幅広く考えたいと思っています。</p> <p>福祉なんでも相談会についてですが、10月から福祉会館で開催予定です。相談内容の分野は問わず、この機会に福祉会館に足を運んで相談いただき、障害でも高齢の相談でも構わないので一旦お話を聞いて、その上で次のところにつなげられたらと考えています。開催はこれからですので、例えば分野を決めた方がいいなど開催する中で工夫をしたいと思っています。</p> <p>精神障害のある方に限らないかも知れませんが、本人が気づかないと支援につながっていかないとの話がありました。先ほど資料3の主要課題は皆さんからよく整理されているというご意見いただきましたが、専門職によるアウトリーチについて書かれていないので、本人から発信がない人に対しこちら側からの支援の必要性を感じました。</p> <p>小中学生も含めた居場所づくりの取り組みを始めていきたいとの話がありました。地域福祉課は障害や高齢の方の取り組みは分かるのですが、子育て分野は所管が異なり、未知数な部分があります。今後、</p>

発 言 者	内 容
	重層的支援体制の中で参加支援にも関わってくると思いますので、具体的なことをまた教えていただければと存じます。事務局からは一旦以上です。
委 員	ありがとうございました。 続いて、基本理念について事務局から説明をお願いします。
事 務 局	(事務局から基本理念の進め方について説明)
委 員 長	それでは、今事務局から説明のありましたとおり、みなさま自身まず自分の大事に思っていることについて、キーワードの書き出しをお願いします。
委 員 長	それでは、書き出したキーワードについてご説明いただいてもよろしいでしょうか。
委 員	「気づき」と書きました。相談してもいいんだと本人が気づくという意味です。
委 員	そもそも理念の原則は、よほどのことが無いかぎりには変えないものだと思っています。元々ある基本理念「できることから始めます！思いやり、助けあい、にっしん幸せまちづくり」という素晴らしい理念があるので、これを継続すべきだと資料を送っていただいたときから思っておりました。
委 員	「1人じゃないと実感できる」と書きました。支援を受ける側もそうですが、支援をする側も1人じゃないと実感できるような地域になればいいと思います。
委 員	「リスペクトする」と書きました。リスペクトの中にあるのは、上下の関係ではなく、対等の関係でお互いを尊重し合うということが言葉の中に込められていると思います。
委 員	福祉会館で相談が始まるということで、市内のどこでも、市役所のように相談できる場所ができることを願って「いつでもどこでも誰でも相談できる」と書きました。また、失敗してもいいからやってみようという意味を込めて「支援の中でチャレンジできる」とも書きました。
委 員	「1人だけど1人じゃない」、「緩やかなつながり」と書きました。監視されることではなくリスペクトにも通じることだと思いましたが、自立しても大事な部分はつながってほしいと願いを込めました。
委 員	「お互いを理解し合う」と書きました。年配の方は支援を受けても気に入らない、若い方は周りの圧が強いと仲間になれないなど、お互いを理解し合うことができていないと思いました。
委 員	「自分のできる仕事と役割を見つけていく」と書きました。子どもでも高齢者でも、支援の担い手でも受け手でも、社会の一員として社会とつながることができる場所を確認し合う意味を込めました。

発 言 者	内 容
委 員	<p>「協働」と書きました。民生委員の信条の中で、私たちは全ての人々と協力し明朗で健全な地域社会づくりに努めますという考えがあります。民生委員は個人活動ですが、災害時には地域の方々と協力し合って活動を進めないと危険が伴うこともあると思っています。</p>
委 員	<p>自分たちの団体だけで解決しようとせず、違う団体や地域との連携で不足する分は皆で解決することが大切だと思います。ただ、個人的にはいつまでも無償ボランティアを募集するには限界あり、有償を取り入れることも必要だと思っています。</p>
委 員 長	<p>ありがとうございました。みなさまからいただきました意見を事務局で集約していただき、次回の委員会でご説明いただくということにさせてもらいたいと思います。</p>
事 務 局	<p>皆さまありがとうございます。</p> <p>今の理念のままでいいのではないかのご意見ですが、現状の地域福祉計画では「できることから始めます」の主語は市民を中心に置いています。一方で、社会福祉法が改正され、地域福祉計画の性格自体が変わっていく中で、市民だけが関わるのではなく、市役所も含めた専門機関がやれることを認識しておく必要があると思います。同じ「できることから始めます」の言葉だったとしても、主語が誰なのかを改めて意識しなければいけません。リスペクトは尊敬とか尊重の言葉で、権利擁護、人権、意思決定支援に大きくつながり、年代、障害、性別、国籍関係なく、そこから出発していく必要性が今の地域福祉計画の理念に少し足りていないと感じます。また、地域の中や専門機関同士のつながりは、今の地域福祉計画の理念にはない考え方で、次の理念の参考にできればと思っています。</p>
委 員 長	<p>皆さまが話された理念は、地域福祉の最新の流れだと思います。各種サービスの念頭にあるのは人権の考えです。常に対等な関係で、上下ではなく常に横の関係でつながっていきます。自立や多様性、ネットワークもこの考え方です。これらを上手にまとめていただき、地域福祉計画が進むようにしていただきたいです。委員の皆さまからの貴重なご意見を尊重したいと思いました。</p> <p>では、本日の議事はすべて終了となりますので、進行を事務局にお返しします。</p>
事 務 局	<p>委員長ありがとうございました。次回、第3回委員会については、11月中の開催を予定しております。日程が決まりましたら、メールでお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>これで、令和6年度第2回日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会は終了します。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p>

発 言 者	内 容
	閉会